

全国国立大学附属学校PTA連合会 平成28年度団体表彰エントリー

所属学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校		
PTA名称	筑波大学附属大塚特別支援学校 PTA	会長名	戸栗倫子
事例名称	カンガルーシップ「ネイバーサポート助成金事業」		

(活動内容)

全附属のカンガルー助成金事業「ネイバーサポート活動助成金」をもとに、国立大学法人東京学芸大学総合教育科学系教授で日本特別ニーズ教育学会代表理事の高橋智先生の講演「現代の子どもが抱える心身の発達の課題とインクルーシブな発達支援」を開催した。障害を持つ子どもを育てる筑波大学附属大塚特別支援学校の保護者は、より多くの方に障害理解を促し、共生を働きかける必要があると考え、筑波大学附属小・中、筑波大附属駒場中、そして、同じ文京区内の附属学校であるお茶の水附属女子大附属小・中 PTA に声かけをした。附属学校の保護者が「発達障害」というテーマに興味を持つか、参加者が集まらないのではないかと、という不安もあったが、各校のPTAに案内文書を配布する他、知人を通しての声かけをする等、地道に案内活動を行い、1月23日の講演には66名の参加があった。特別支援学校の保護者だからこそ発達障害を持つ子どもの苦悩、その保護者の思いを理解でき、通常学級に在籍する発達に課題のある生徒に対する理解・支援について考える良い機会となった。

講演は高橋先生の教え子で、東京都自閉症協会勤務の神長涼さんが「発達障害当事者の抱える困難と課題～生育史の振り返りを通して～」というテーマで話す。ご自身の生育と照らし合わせながらその時直面した課題、その時感じたこと等を赤裸々に話され、高橋先生が学術的なコメントをされる形はテンポが良く、分かり易かった。その後、高橋智先生に「子どもは適切な発達支援により顕著に発達します」というテーマで講演頂く。高橋先生のアドバイスにより、最後の質疑応答は設けず講演後に個別対応する形とした結果、先生と話す保護者の姿が複数見られ、保護者の心に寄り添うものとなった。色々な附属学校保護者に障害理解をしてもらう機会となり、アンケートより「良かった」「誰かに伝えたい」という回答であった。生徒だけでなく保護者も障害理解について学ぶ必要があると感じる中、とても有意義な活動であり、今後も続けていく必要がある。

【講演の様子】



【保護者感想】

- ・発達障害である神長さん本人のお話を伺いとても前向きな姿勢に感動致しました。神長さんを取り巻く環境、保護者の支援があってこそ今の今だと思われま。障害を持たない子供の子育てですらいつも何かに追われているような余裕のない日々です。他者を認め合う心子供にも持って育ってほしいです。是非、筑附小に障害を持つ子ども達をお招きし、交流の場を持ってもらいたいと思いました。
- ・発達障害だけでなく、今を生きる子供たちの持つ問題があることがよくわかりました。神長さんのお話はとてもよくまとまっていて、発達障害をもつ方の具体的な課題というものをよく理解することができました。困っている人たちに話しかけるというシンプルなアドバイスが非常に心に残りました。